



令和7年度 新人研修 (保育ガイドライン)

「保育の基本を深める」～子どもを中心に考える保育実践の方法～

日時：令和7年7月15日(火) 15:00～17:00

会場：生涯学習センター

講師：日本体育大学 教授 齊藤 多江子 氏



## 児童の権利に関する条約

国際連合が1989(平成元)年に「**児童の権利に関する条約**」を採択、その後1944年わが国でも批准された。第3条において、批准国は**子どもの最善の利益のために行動しなければならない**と定めている。

児童福祉法  
こども基本法



保育所保育指針

ア 保育所は、…、入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない。

## 保育者(大人)に求められること

- 子ども一人一人をかけがえのない存在であり、権利の主体としてとらえること
- 子ども自ら主体的に環境に関わり、自ら育つ存在であることを認識すること

一人一人をその子らしく受け止め、かけがえのない存在、と保育者も子どもも思っしてほしい。

### 「子どもの最善の利益を考慮する」保育4段階(網野, 2015)

- 第一段階: 子どもの命や健康、成長・発達が脅かされないように考慮する
- 第二段階: 子どもへの差別、偏見、軽蔑がなされないように考慮する
- 第三段階: 子どものニーズ、思い、願いを無視、軽視することのないように考慮する
- 第四段階: 子どもの意見を確かめるように考慮する



つもりはなくてもこうなっていないか?

適切な人間観・子ども観は保育者にとって重要な資質の一つ

「子どもなのだから、分からないだろう」などの**先入観**や**固定観念**はないだろうか。人格を辱める言動はなされていないだろうか。

あたりまえを見直す

## 足立区ガイドライン チェックリスト

- <人権の尊重> 「なんでそんな事ができないの」等否定的な言動をしていない 等
- <虐待の行為> 子どもを管理するために体を抑える、腕を引っ張る等をしていない 等
- <食事の提供 0・1歳児> 咀嚼している時には、子どもの口の前に食具を持っていかない 等
- <人的環境> 子どもに対して尊重の気持ちを表している 等
- <愛着形成 0・1・2歳児> 子どもに関わる時は、その子どもに事前に言葉がけをしている 等



## 演習1

足立区教育・保育の質ガイドライン別冊 保育実践振り返りシート「子どもの人権について」を使ってチェックしてみる



受講生より

- ・自分も他の保育士もチェックリストの行動をしているか振り返り、職員会議で共有したい。
- ・自分たちの行動一つ一つが子どもたちに影響することを改めて感じた。
- ・子の安全を守るために「ダメ」と言ってしまうこともあったと振り返った。

子どもは「ダメ」だけでは気付かない。時間はかかるが、なぜ「ダメ」なのかを伝えていく。ダメ、注意以外の豊かな言葉の引き出しをたくさん持っているといい。子どもが気付いて自ら止めようとしていたり、場面を切り替えられるように援助していくと良い。



講師より

## 子どもの主体性と子ども理解



- その子の主体性を理解すること ⇒ 一人ひとりの子どもを理解すること
- 主体性を尊重する ⇒ 子ども理解に基づいた一人ひとりへの援助方法や保育環境を整える
- 主体性を尊重するための**方法を考える**こと ⇒ 個別性への配慮  
↳ 保育はその子にとって必要な環境を考える仕事



# 「子どもの最善の利益」・「子どもの主体性」について考える

二つの言葉から思い浮かぶ食事場面を、エピソードとして書いてみましょう



受講生より

4歳児で野菜が苦手な給食を食べたくない子がいる。「何なら食べられそう？」と聞くと「お肉とご飯」と言うので、取り分けると、自分から食具を持って食べ始めた。



講師より

食べたくないの裏側にある理由はそれぞれ。どれなら食べられるかを探っていく。子どもに寄り添って一緒に解決策を考えていく。すると自分なりの解決の仕方を子どもが考えるようになっていく。

## 集団での生活における配慮

1 保育所保育に関する基本原則  
(3) 保育の方法  
のA~オについて思い浮かぶ場面を、エピソードとして書いてみましょう



受講生より

同じ色、同じ形のおもちゃがあっても、取り合いになる。「使っているからちょっと待とうね」と言っているが納得しない。



友達がやっていることを自分もやりたい、というのは、発達段階としてある。「本当は一緒にやりたいよね」と理解をもって言葉を掛けていく。気持ちを受け止めてもらえた、ということが大事。



講師より

例) エ 子ども相互の関係づくりやお互いに尊重する心を大切に、集団における活動を効果あるものにするように援助すること。

### 特に3歳未満児の保育では

発達や個人差を考慮し

- ・一人ひとりの子どもの発達や興味に応じる
- ・一人ひとり生活のリズムやペースを尊重する
- ・一人ひとりが安心・安定して過ごせる
- ・その子なりの過ごし方が保障される
- ・一人ひとりが十分に遊ぶことを保障する



安全にもつながり、事故を防ぐことにもなる

### 特に3歳以上児の保育では

「個」の育ち⇔「集団」の育ち

- ・一人ひとりの子どもが安定し、園やクラスが居心地がよい場所に  
⇒遊びのなかで友達との様々な関わりが生まれる
- ・友達と同じ場所で個々に自分のしたいことをして遊ぶ関係から  
⇒友達とのつながりを感じて遊ぶ関係へ  
⇒グループやクラス集団で遊ぶ楽しさを実感できると子ども自身が集団を形成していくように

## 演習2

話を聞いて、担当しているクラス等において、今、課題だと感じたことや気になったことは何か



受講生より

子ども達がいつでも遊べるように環境設定をしているが、興味が移りがち。「今使っているおもちゃはどうする？」と少しづつ片付けを促しているが、そのままになっていることが多い。

言葉で言っても伝わりづらい。大人も楽しんで片付けをする姿を見せるとよい。クラスの中でもいろいろな場所があり、とって置いたり次の子が来て遊ぶのであれば片付けなしもあり!



講師より

### ● 受講生の報告書より ●

自分の保育を振り返るきっかけとなった。グループワークを通して、自分と同じように保育に悩んでいることを知り、互いにより良い方法を考えることができた。自分の園での方法や、考えを共有することで、今後相手の課題が自分の課題になった時に、今回考えた解決策を試すことができると思った。

子どもの行動を大人の都合や価値観で判断するのではなく、その子の立場に立って物事を見る姿勢を持ち、日々の保育を振り返っていきたい。日々の保育では集団を見ることに意識が向きがちだが、今回の研修を通して「集団の前にまず一人ひとりを見ること」の大切さを再確認できた。上手いかわない時こそ、個々について考え、そこから集団の関係性を築いていけるよう、丁寧なまなざしと関わりを積み重ねていきたい。